

第4回「キャリア教育アワード」(経済産業省)で ABIC が奨励賞を受賞

「キャリア教育アワード」は、経済産業省が2011年から行っている制度で、子供や若者たちに対して、仕事のやりがいや学校での学びと実社会とのつながりを伝える「キャリア教育」に取り組む企業等の活動を表彰するものである。

ABIC は今回初めて応募して、応募総数 60 件中、2 点応募したうちの「豊富な



キャリア教育推進連携シンポジウムでの受賞風景

国際ビジネス経験に基づいた大学・大学院講座」が奨励賞を受賞した。「継続性」「普及性」「汎用性」「企画性」「教育効果」についての具体的な取り組み、工夫している点が評価基準とされ、総合的な受賞理由として下記を頂戴した。

- 大学とビジネス界をつなぎ、実際に海外で業務に携わった経験を基に行われる講師の講演、講義は、内にこもりがちといわれる学生に広い視野を提供する取り組みとして、また、グローバル人材育成という視点で極めて価値がある。
- グローバル化を身近なものとして捉える機会を効果的に提供しており、国際貢献等、21 世紀型スキルが求められる現在の教育に与える意義は大きい。
- 非常勤講師によるオムニバス方式が中心であるが、講座ごとに担当コーディネーターを置くことで、学生の関心を引く講義内容の工夫、学校とも十分調整され、教育の面での効果も得られるよう大学のニーズに応じた柔軟な対応がなされている。

詳しくは、下記の経済産業省ホームページに掲載されている。

<http://www.meti.go.jp/press/2013/01/20140110001/20140110001.html>

プログラム名	豊富な国際ビジネス経験に基づいた 大学・大学院講座
活動の内容 (概要)	<p>ABIC の多彩な活動の中の一つに、大学・大学院での講座提供がある。商社、製造、金融、情報等々、様々な分野の出身者である ABIC の活動会員が“豊富な国際ビジネス経験”に基づき、それぞれの得意分野、専門性を生かして国際情勢等に関する授業（海外地域論や各種産業論等）を展開している。“グローバル社会に向けての対応力向上に配慮した講義”や“世界情勢を知り、学びの必要性を理解させる内容の講義”を提供している。講義の企画は大学や大学院からテーマを指定される場合と、ABIC の大学講座コーディネーターが講義内容を提案する場合がある。オムニバス方式や、一人で講座を受け持つ、専任教員の講座を補完する、日本語と英語で同じ内容を講義する等、ニーズに応じた柔軟な対応が可能である。</p>
 <p data-bbox="220 1182 754 1267">立命館アジアパシフィック大学での講義風景 (講座名：“Global Automobile Industry”)</p>	 <p data-bbox="826 1182 1417 1317">創価大学経済学部での講義終了後の ABIC 講師と 受講生の一コマ (講座名：“Japan Asia Studies Program Business and Japanese People”)</p>